平成１７年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

（整理番号）	提案機関名	湘南地域農業改良普及センター
５２ ※記入不要		

要望問題　縞萎縮病抵抗性の大麦有望品種の選定について

要望問題の内容　【　背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）　】

麦は平成 13 年度から民間流通に移行し、実需者ニーズに合致した良質な生産物が求められている。
このような情勢の中、大麦についてはカシマムギが県の奨励品種となっており、伊勢原市大田地域でも水田の裏作としておよそ４ ha が作付けされている。しかし、カシマムギは縞萎縮病に弱く､大田地区ではかつてカシマムギに縞萎縮病が拡がり麦種の転換を図ったことがある。
その後、実需者ニーズから再びカシマムギが作付けられるようになり、今年で３年が経過することから、今後、縞萎縮病の再発が懸念される。
そこで、縞萎縮病に抵抗性があり、水田裏作で作付けできる大麦品種の選定を、引き続き早急に行っていただきたい。

解決希望年限	①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内
研究対応区分	①研究所対応　②委託研究　③共同研究　④その他
対応を希望する研究機関名	①農業総合研究所（ ②根府川試験場　③三浦試験場　④津久井試験場 ） ⑤畜産研究所　⑥水産総合研究所（ ⑦内水面試験場　⑧相模湾試験場 ） ⑨自然環境保全センター

※　ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業総合研究所
部　　署：	生物資源部

対応区分　①実施　②実施中　③継続検討　④実施済　⑤調査指導対応　⑥現地対応　⑦実施不可

試験研究課題名　(①、②、④の場合)
新品種系統適応性検定試験
（１）奨励品種決定基本調査・普及事業(S29～)
ア　奨励品種決定調査事業(S29～)

対応の内容等

大麦品種の選定については、上記課題により実施しています。
育成地から縞萎縮病抵抗性の品種・系統を取り寄せ、本県における栽培特性を調査したところ､「さやかぜ（関東皮７８号)」が優れていました。しかしながら加工（麦茶）適性はやや劣るようです。本県に適した栽培特性と実需者の求める加工（麦茶）適性を併せ持つ品種選定を行います。

解決予定年限　①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内

備　考